



OH! MY SCOOTER **05** special

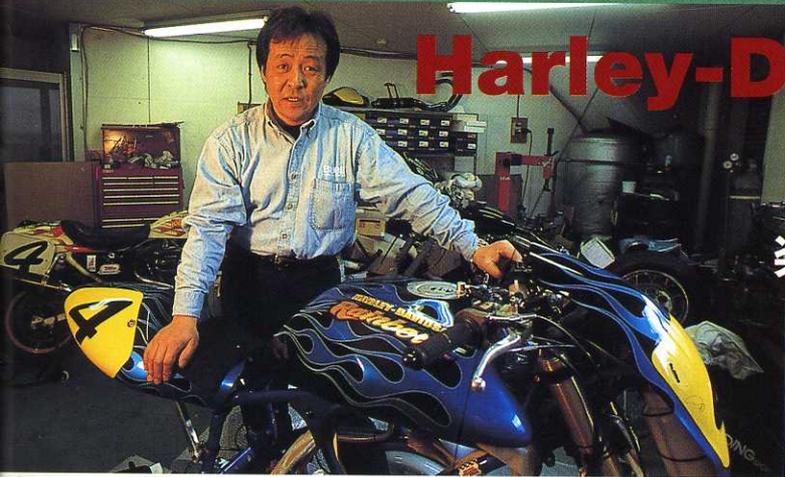


昨年の9月に行われたもてぎサーキットでの7時間耐久レース。楽しむために生まれたこのバトルには天田さんは同じく833に出ていた山本選手らとエントリーし、60台中50位という成績だったが、来年もまた出るつもり。

Harley-Davidson RAINBOW

レインボー / 天田正治さん 98 ビューエルX1

楽しくなけりゃ、続けられないよね。



年間チャンピオンを3回ゲットした833は、現在オープンクラス用に1200まで排気量上げられている。2本出しのマフラーも現在のテスト中とのこと。走りはご覧のように、見るほうに興味が湧いてしまいがちなくらいにきれいだ。

天田さんのマシンは、エンジンを基本的にストックとしながら吸排気系チューンに加えて、足回りを前後ともオーリンズに変更。ブレーキはフレンボを使い、ホイールにはテクノマグネシウムというレースの世界では馴染みのパーツが使われている。レインボー ☎ 02981276666

コンマ1秒の差が勝負の明暗を大きく左右するレース。その中でも国際格式のレースへ参加する資格を得たひとにぎりの人間がハーレーに魅せられるケースは……少ない。

茨城県にある正規ディーラー、ハーレーダビッドソン・レインボーの天田さんは、国際A級の資格を放棄して94年からスポーツスターカップ (SSC) の833クラスにエントリー。また昨年には99ビューエルX1ベースのレーサーで、もてぎサーキットの7時間耐久レースにチャレンジ。今年は3月20日のバトル・オブ・ザ・ツイン、そして5月から始まるSSCオープンクラスにも参戦を予定している。

「国際レースをやめて7年ブランクがあったんだけど、93年から始まったSSCが気に入って出したのがきっかけ。それ以来今も辞められずに続けてるね」。

そう話す天田さんにスポーツスターとビューエルのレーシングマシンとしてのポテンシャルを聞いてみた。

「スポーツスターはフロント19、リア16インチって作りを残したままでもよく走る。バランスがよくなきゃあんなにいいタイム出ないよ。今のタイムは限界まで来てると思うけど、潜在能力は高いと思うなあ。ビューエルはレースを始めたばかりだから、僕にとってはまだ未知数」。

国際A級だったことを前提に話をすると、口数が少なくなる天田さんだが、ひとりのハーレー好きのレース好きとして話をするとまるで顔つきが変わって話も弾む。彼のもうひとつの楽しみは、もう1台の愛車98ロードキングでのツーリング。楽しくなけりゃ続けられないと語る彼にとって、レースだって好きなバイクでレースに出ることが大切なのだ。スポーツスターとビューエルでレースを続ける天田さんを見てみると、当時の愛車で旧車レースを楽しむアメリカの名ライダーたちの顔が浮かんできた。天田さんのような人が増えたら……日本のハーレーシーンはもっと面白くなるだろう。☎